

令和2年度 学校評価結果報告書

兵庫県立芦屋特別支援学校

1 学校自己評価結果について

本年度の17の自己評価の集計結果は、評価Aの項目が12、評価Bの項目が5あり、自己評価の集計結果は、全職員、各学部、その他の職員の評価もA及びBで今年度の実践目標については「達成できた」ということができる。

評価Bになっている項目は、5分掌で、教務部、生徒指導部、地域支援センター、研究研修部、キャリア教育推進委員会であった。Bとなった要因を考察すると、実践目標や評価項目がピンポイントであったり、評価項目に関する情報が少なかつたりして、評価が難しかったと考える。また、今年度の目標が卒業時点で目指す内容の場合どうしても評価が低くなり、そのため全体の共通理解や他学部への理解を図るのは難しくなる。

有効回答率の高くないもの（地域支援センター67%生徒指導部70%）については、実践目標及び評価項目の設定がピンポイントだったり、評価項目に関する情報が少なかつたりして評価しにくかったことが考えられた。全職員が自分事として理解し、評価することができる（「わからない」という回答にならない）よう、評価項目を設定したり、評価できる情報を提供したりすることが必要である。

今後の、評価項目の設定の仕方について、具体的な検討が必要である。

2 各種アンケート結果について

(1) 保護者アンケートのまとめについて

どの項目に対しても評価平均が高く、評価もAまたはBとなっており、保護者の評価も概ね良かったと思われる。しかし、学校に対する要望・課題をお持ちの保護者も多数おられた。休校中のコロナへの学校の対応については、教科書を送ったりするだけになって学習プランが伝えられなかった。休校中の連絡が保護者にすると少なく、十分に話すことができなかった、リモートもあまり参加することができていないという指摘が多かった。

学校としては、コロナ対応という感染防止対策を取りながら、児童生徒また保護者とコミュニケーションを図っていくことができるかということに苦慮していた。状況を踏まえながら、学校としての統一した対応を検討し行ってきたが、児童生徒への支援と保護者の不安への対応として満足いくものではなかったということは、真筆に受け止め、連絡の取り方、連携の取り方、並びに学習等のあり方について検証しなければならない。

学校課題として捉えるべき内容を整理し、全職員で共通理解する事も必要であり、担当分掌が回答する事や、校内で話し合っ解決策を見出し対応するなど、

具体的な対応策を検討していかなければならない。例年は、学校評議員会で学校評価の結果について、PTAにも見ていただきコメントを頂くが、緊急事態宣言発令のため、今年度は学校評議員会を開催することができず、それができなかった。学校課題として捉えるべき内容を精査し改善していく。

(2) 砂子・訪問学級アンケート

全項目9のうち7項目でA、2項目でBと、評価平均は高い。しかし、砂子・訪問学級の回答数が少ないため、概ね高評価になってくる。そのため個別の評価と判断した方がよい。

(3) 地域アンケート

全8項目について、本年度はコロナ禍のため行事等が少なくなり、評価が低く出ているものもある。ホームページや学校情報の発信、学校の様子、地域の学校・園の個別の支援を要する児童生徒の指導・支援などの評価3項目で、評価がCであった。今後、対応策を考えていく必要がある。

情報発信の一つとして本校が、避難所として指定されていることや学校の内部に関わる項目について、よく知ってもらうことは、現状では難しいが、ホームページやブログが充実してきているので、外部からもアクセスできる方法について周知できたらと思う。

3 学校関係者評価について

今年度はコロナ禍のため、学校評議員会を実施できなかったため、学校関係者評価としてアンケート形式でご意見を伺った。本校に対する意見・要望としていただいた内容を下記に掲載する。

- ・学校自己評価では、連携や研究を伴う事柄については、コロナ禍での影響もあったかと思うので、次年度期待ができる。(コロナ禍での創意工夫を含めて)
- ・コロナ禍での中止や変更など、学校全体では大きく影響された面も多々あったと思われます。きめ細かく対応をして頂き感謝している。
- ・学校評価では、保護者のアンケート集計の高さに関して嬉しく思う。
- ・キャリア委員会の進路指導だよりは、個人的にも為になった。さらに12年間を見通した学校教育を期待している。
- ・進路指導部だよりについて
各号とも非常にわかりやすくまとまっていると感じました。特に進路先は独自の用語(一般就労、福祉就労A型・B型、訓練校、自律訓練、生活介護など)が使われていてはじめて聞くと非常にわかりにくいですが、1号ずつ丁寧に説明されていてとても良いと思った。

- ・進路について

コロナ禍のため非常に困難な状況の中ご苦労されている様子が伺える。

(1) 生活介護事業所の空きが、なくなってきているのが非常に気になる。保護者送迎が必要であるところが出てきているなど、重度の障害のある子どもさんにとって非常に厳しい状況である。行政などにも理解していただく必要がある。

(2) 現場体験実習など事業所の確保にも苦労されている様子。特別支援学校では全国的に同じ問題を抱えていると思う。例えば、特別支援教育課などを中心として（技能検定も今年度どうなったか知らないのですが）情報交換して場合によっては、行政を通して要望を企業の方に出してはどうか。

- ・新型コロナウイルスへの対応について

非常に丁寧に行われていると感心しました。過去の、ノロウイルス、インフルエンザウイルスへの対応を踏まえて実施されているようである。

ワクチンの接種が始まって、来年度急に感染が治まることは考えにくいので、新しい知見がわかるたびに面倒ですが、少しずつの改訂を行いながら、不要な作業はなくし、先生方の負担のないようにかつ引き続き感染防止に努めていただきたい。

- ・外部人材の活用について

新型コロナウイルスの流行にともない、ボランティアなど外部人材の活用が困難になっているかと思う。今後、文部科学省などの通知などを参考に再度活用していけると良いなと思います。

子どもさんや教職員の皆様の活躍が非常によくわかる資料であった。

- ・「いつもと違う」に弱い子どもたちの貴重な学習機会が守られることと、望む進路に全員がすすむことができることを願っている。

- ・先日もスクールバスの送迎を見送たが、子どもたちの体調や心の問題など気になっている。